



学校通信

令和8年 4月30日
東京都立葛飾盲学校長
竹内 大吾
(第2号)

「わからないことをわかっていないと、わからないことはわからない」

校長 竹内 大吾

青葉を吹き渡る快い風が吹く頃となり、明日から5月を迎えようとしております。

4月17日(金)の保護者会には、オンラインを含めて、多くの方々に参加していただき、誠にありがとうございました。学校経営計画について説明させていただきましたとおり、今年度、特に、学習面では、具体物やICTを積極的に利活用した授業を推進し、子供たちの学びを深めていきたいと思っております。

「わからないことをわかっていないと、わからないことはわからない」、これは、3月まで放送されていたテレビドラマ「テミスの不確かな法廷」の中での主人公の言葉です。このドラマは、発達障害のある主人公が、裁判官として真実を明らかにするために、実直にわからないことに向き合いながら、司法の場で奮闘していく姿を描いた話です。

この言葉が意味するところの、「何がわからないか」をきちんと理解していないと、わからないことの本質を把握することができず、いつまでも真実に辿り着けないということは、今の世の中を生きる私たち全員に対し、問いかけられていることではないでしょうか。

ひと昔前とは異なり、私たちは、「この言葉って何?」と疑問に思ったときに、インターネットや生成AIを利用することで、瞬時に疑問を解決する機会が増えてきました。しかし、インターネットや生成AIから導き出された答えだけで満足してしまうことは、「わかった」ではなく、「わかったつもり」の状態なのかもしれません。

学校のことに話を戻すと、子供たちは、答えや正しい結果を導き出すまでの過程を主体的に経験していくことで、自分がどこまでがわかっていて、どこからがわからないかということに気づき、そこを乗り越えた先に深い学びを得ることができます。これは、教科の学習だけでなく、自立活動や身辺自立に関することについても、同様です。

そのため、学校では、様々な場面で、子供たちに、具体物に触れたり操作したりする体験をさせたり、または補助としてICT機器等を使わせたりして、主体的に学ぶ経験を積ませることで、自分のわからなかった、気付かなかったことに気付かせ、そこを乗り越えた先の本当の「わかった」「できた」につなげていことを大切にしていきます。今年度も、よろしく申し上げます。

「中学部転入生歓迎会」

今年度、中学部に新入生はいませんが、中学部2学年に転入生がいましたので、4月14日(火)に中学部転入生歓迎会を行い、生徒・教員が個々に自己紹介をしました。自己紹介のお題に、「休みの日にすること」などがあり、それぞれ自分の好きなことを紹介しました。在校生と転入生がお互いに知り合いたいという気持ちが強かったようで、自己紹介は非常に盛り上がりました。

今年度は、転入生1名を含めて7名の中学部ですが、明るくにぎやかな雰囲気になりそうです。少人数ですが、一致団結して過ごしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(文責 鈴木)